

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		子 実		初摺 歩合	試験年次
					草丈	穂長	穂数	玄米重	稈稈重	1立 重	千粒 重		
		月日	月日	日	cm	cm	本	kg	kg	g	g	%	昭和 年
北見支場	冷床	8. 7	10. 1	152	100.5	18.5	18.0	3,954	5,480	758	18.6	82.0	34
	直播	8.17	—	—	—	—	—	3,126	—	—	—	—	34
天北支場	冷床	8. 7	9.23	149	78.0	18.0	—	4,002	3,778	806	18.7	79.7	34
空知支場	冷床	8.11	9.28	154	85.1	18.3	23.0	4,450	—	803	20.6	82.4	32~34
国立農試 作物部	冷床	8. 6	9.20	151	81.6	13.4	25.2	4,990	5,724	795	18.7	81.8	33~34
国立農試 美唄研究室	冷床	8. 6	9.22	153	—	—	19.9	4,488	3,823	782	19.9	84.9	33~34

II 大麥および裸麥

春 播 大 麥

(1) 六角大関 (札育1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道農業試験場において「町村大麥」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和25年より生産力検定試験を行なうと同時に地方適否試験を行ない優良と認めたもので昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 密6条種に属し、穂は短かく太く、長芒を有し穂数はやや少ないが、草丈は短かく稈は太く耐倒伏性である。
2. 出穂期は「札幌六角」、「大樹大麥」よりやや早い、成熟期はそれらと同じ程度である。
3. 子実は大粒豊満で色はやや灰色を帯びる。稈率はやや高い。
4. 斑葉病にはやや強いが、小銹病抵抗性は「札幌六角」程度である。
5. 子実収量は多収である。

奨 励 範 囲

北海道中央部ならびに網走支庁管内に奨励普及する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 出穂 本数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	月日 6.30	月日 8.1	日 95	cm 104.6	cm 5.2	本 29	kg 2,359	kg 2,983	g 632	g 36.3	昭和 年 26~33
北見支場	6.28	7.29	93	82.0	5.1	32	2,868	—	595	38.9	25~33
原々稲農場 女満別分場	7.3	8.3	95	67.6	4.6	23	2,137	—	593	36.3	29~33
天北支場	6.30	8.5	100	97.9	5.2	29	2,515	2,651	564	37.0	28~33

(2) 原 田 大 麦

米歴ならびに育成経過

この品種は昭和24年、河西郡中札内村上札内の原田将吉氏が、自家圃場で抜穂したものを昭和26年、北海道立農業試験場十勝支場において種子の分譲をうけ試作したところ、特性も固定しているので品種比較試験に入れて生産力を検定すると共に、地方適否試験を行なった結果優良と認め、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. この品種は6条種で草丈は「大樹大麦」,「札幌六角」に比べてやや高い。穂長は両種に比べてやや短かく、芒は長い。茎は太く、耐倒伏性である。
2. 出穂期および成熟期は「大樹大麦」,「札幌六角」よりややおそい。
3. 子実の大きさは「札幌六角」と同程度で稃色は灰黄色である。
4. 斑葉病にはやや強く、小銹病抵抗性は「札幌六角」程度で、白濁病には強い。
5. 「大樹大麦」,「札幌六角」にくらべ多収である。

栽 培 適 地

この品種は倒伏ならびにその他の障害にも強いので、十勝地方の栽培環境のよくない地帯において配合品種として適する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 葉 数	子実重	稈科重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	7. 3 月 日	8. 3 月 日	96 日	123.0 cm	6.7 cm	34 本	2,345 kg	3,845 kg	642 g	34.0 g	昭和 26~33 年
北見支場	6.31	8. 4	101	111.0	6.8	36	2,501	—	570	31.1	31~33
原々種農場 女満別分場	7. 6	8. 6	99	111.7	6.7	25	1,537	—	477	31.3	29~33

(3) アカソムギ (春播皮麦農林9号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道農業試験場において「町村大麦」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、雑種第2代まで集団採種を行ない、昭和22年に雑種第3代を栽植して個体選抜を行なった。以後選抜固定を図り、雑種第6代から「札育2号」の名称の下に生産力検定予備試験を行なった。しかし固定度が充分でなかつたため、第8代にいたつて北海道立農業試験場北見支場において生産力検定予備試験に供試した材料の中から集団選抜を行なつて、「札育2号〜2」として生産力を検定するとともに系統選抜を併行した。昭和29年には同支場大麦指定試験地が創設されたので、この事業が引継がれ、昭和30年から「北統5号」として育成系統生産力検定試験に供試すると同時に、各市町村において委託試験を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 四角種に属し、穂は粒着疎で長く、長芒を有し、穂数中位で草丈は比較的高く株は閉じているが稈太く、耐倒伏性は「六角大関」よりやや弱いが一様にやや強の部に属する。磷酸欠乏抵抗性は強い。
2. 出穂期、成熟期ともに「札幌六角」より1〜2日位おそく、中生に属する。
3. 子実は醸造用大麦に似て大粒豊満で、品質は良好である。精麦歩留は「札幌六角」、「六角大関」よりも高く、搗上り時間短く、且つ搗上り後の粒張りも良好である。千粒重、1立重は道内既成品種中で最も重い。

4. 小锈病、白渋病、斑葉病などの病害に対する抵抗性は他の品種と同程度である。

5. 各地における成績では極めて多収性であつて、「札幌六角」より40～50%多く、その他の品種に比べて10～20%の増収を示している。

奨励範囲

比較的肥沃でない普通地に適し、また磷酸欠乏抵抗性が強いので、磷酸に不足している火山灰地、あるいは開拓地に栽培されてよい。食糧として裸麦の生産不振地帯に、あるいは飼料として栽培されることも可能で、適応範囲は全道一円におよぶものと考えられる。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間数	子実重	稈稈重	1立 重	1粒 重	
十勝支場	月日 6.28	月日 8.6	日 102	cm 120.0	cm 9.0	本 40	kg 2,649	kg 3,621	g 614	g 38.3	昭和 年 31～33
北見支場	6.30	8.3	100	103.0	9.0	35	3,229	*384.4	591	40.4	28～33
大 麦 指 定 地 減 産 地	7.7	8.6	98	114.9	8.9	30	2,246	312.7	617	37.5	29～33
根室支場	7.16	8.20	100	110.7	8.6	50	2,144	3,484	620	38.7	31～33
天北支場	7.2	8.8	102	117.5	9.0	30	2,821	3,648	568	37.8	31～33

* 昭和31、32年の平均

(4) マシユウムギ (春播皮麦農林15号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年北海道農業試験場において、「町村大麦」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、以来選抜固定を図り雑種第6代から「札育2号」の名称で生産力検定予備試験に編入した。しかし固定度が十分でなかつたため、雑種第8代にいたつて北海道立農業試験場北見支場において集団選抜を行なつて「札育2号～1」として、生産力を検定するとともに個体選抜を併行し、以来系統育成を行なつて、昭和29年に新設された北見支場大麦指定試験地(女満別町)に引つがれ、「北統1号」として生産力検定を行なうと同時に各地において、地方適否を検定した結果優良と認め、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草状は両親の中間型である。条列は6条にして穂型は四角で「六角大関」より長い。穂の密度は中、芒は長芒であるが脱芒は容易である。
2. 成熟期は「六角大関」より2～3日おそく、「アカンムギ」よりやや早い。
3. 白渋病、黄锈病、小锈病には強いとはいえないが「六角大関」よりやや強い。
4. 稈は太く強いので耐倒伏性は強い。
5. 子実収量は「アカンムギ」程度で、「札幌六角」、「六角大関」よりは2、30%増収する。
6. 子実は「アカンムギ」と同じく黄白色大粒で、品質はよい。精麦歩留は「六角大関」より高く、「アカンムギ」程度である。

奨 励 範 囲

「六角大関」に代わる倒伏に強い品種として比較的肥沃な倒伏の危険のある地帯、または根室、釧路、十勝地方の濃霧地帯、北見沿岸地帯に栽培されてよいと考える。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		精麦 歩合	試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm 間茎 数	子実重 kg	稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	7. 3	8. 2	—	106.3	6.3	29	2,600	—	585	45.6	—	昭和 34
十勝支場	6.30	8. 4	—	108.6	6.6	38	2,548	—	615	37.2	—	30～34
北見支場	6.30	8. 3	**98	103.8	6.8	34	3,252	**303.0	589	37.8	—	30～33
大指定試験地	7. 4	8. 3	*100	113.6	6.6	34	2,507	**340.7	609	36.1	72.0	30～34
根室支場	7.14	8.16	—	99.9	5.9	32	2,028	—	615	34.9	—	30～34
天北支場	6.30	8. 5	—	117.9	6.9	34	3,248	—	573	37.7	—	32～34
国立農試 畜産部	6.28	8. 3	—	105.8	6.8	32	2,780	—	633	43.4	—	30～31

* 昭和30～32年平均

** 昭和33～34年平均

(5) 春 星

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和16年日本麦酒会社科学研究所吹田分室において「ハルビン2条」を母とし、「ボヘミヤ8号」を父として人工交配を行ない、昭和17年以降日本麦酒会社科学研究所新琴似試験地にて選抜固定を図り、地方適否を検定してきたもので、北海道立農業試験場においても北見、上川両支場とともに生産力検定試験を行ない、昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期ともに「ハルビン2条」程度である。
2. 穂型は二角直立種で茎数中位、稈はやや太く、稈長、穂長は「ハルビン2条」と大差がない。
3. 斑葉病、小銹病は「ハルビン2条」より強い。
4. 子実は穀皮やや厚く、蛋白質やや多く、醸造用として良質といえない。
5. 子実収量は本場では「ハルビン2条」より多く、北見、上川両支場ではこれと同程度で多収である。

奨 励 範 囲

全道的品種として奨励する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 株数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
北見支場	月 日 7. 8	月 日 8. 6	日 96	cm 101.0	cm 7.0	本 40	kg 1,985	kg —	g 635	g 46.1	昭和 年 29~33

裸 麥

(6) 根 室 裸 (根育6号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年、北海道立農業試験場根室支場において「さなだ麦」を母とし、「米国4号」を父として交配を行ない、昭和27年から生産力検定予備試験を、昭和28年から「根育6号」の系統名で試験を行ない、昭和31年

3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期，成熟期ともに「丸実16号」や「北見裸」よりややおそい。
2. 耐倒伏性は比較的強く，穂の形状は四角で粒着は疎で長い芒を有する。
3. 小錆病，斑葉病には比較的強い。
4. 子実は飴色で，大きさは「丸実16号」よりやや大きく，品質は良好である。
5. 食味は「米国4号」よりやや劣るが佳良である。
6. 子実収量は「丸実16号」，「北見裸」より多収である。

奨 励 範 囲

早中熟種栽培地帯に広く適すると思われるが，一応釧路内陸および根室内陸地帯における「丸実16号」，「北見裸」の更新品種として，また大麦の配合品種として奨励する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 株数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	7. 7	8. 7	99	102.5 cm	7.3 cm	28	958 kg	1,869 kg	702 g	30.5 g	昭和 年 29~32
北見支場	7. 1	8. 7	103	97.8	5.8	40	2,116	—	609	29.8	31~32
大麦指定 試験地	7. 5	8. 4	95	94.0	6.0	30	1,553	—	660	31.1	31~33
根室支場	7.13	8.23	97	97.6	4.8	46	1,762	2,810	684	31.0	29~31

III 小 麦

春 播 小 麦

(1) キタミハルコムギ (北育3号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年，旧農林省札幌農事改良実験所琴似試験地において，「(Mido×Pilot)」を母とし，「春播小麦農科29号」を父として人工交配を行ない，以後選抜を重ね，昭和26年雑種第4代より北海道立農業試験場北見支場において選抜固定を図った。以来各地で地方適応性検定試験に供試し，昭

和29年より「北育3号」という地方番号をつけ、生産力検定試験と同時に原種決定現地試験を行なった結果優良と認めたので、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草型は「春播小麦農林29号」型で、強稈、やや長穂で1穂粒数は多いが穂数はやや少ない。
2. 赤銹病、黄銹病には「春播小麦農林29号」よりかなりの抵抗性をもっている。黄銹病には「春播小麦農林29号」なみ、赤黴病には「春播小麦農林29号」より弱い傾向がみられる。
3. 収量は「春播小麦農林29号」より多く、また年により場所による変動は少ない。
4. 子実は赤粒、中間質で硝子率は年により高くなる場合がある。品質は「春播小麦農林29号」なみである。

奨 励 範 囲

主として網走支庁管内の「春播小麦農林29号」が飼伏する地帯、および銹病の多発地帯に「春播小麦農林29号」および「春播小麦農林75号」と適宜配合して奨励する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 莖数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	7. 2	8.14	109	118.7	9.5	54	2,315	3,874	736	362	昭和 年 30~33
北見支場	7. 1	8.11	110	110.2	9.5	48	2,460	—	739	384	28~33

秋 播 小 麥

(2) ホ ク エ イ (本系 331号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和17年北海道農業試験場小麦試験地において、「赤銹不知1号」を母とし、「小麦農林58号」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和24年「本系 331号」の系統名をつけ女満別麦類試験地に配付、

昭和25年以降北海道立農業試験場北見支場において、生産力検定試験を行なうとともに、系統育成ならびに特性検定試験を行なつたところ、優良と認めたので昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 短稈，直立にして多けつ型である。穂は無芒褐稈，幼苗の姿勢は中間型葉身比較的細く，葉色はやや濃緑である。
2. 耐寒性は強く冬枯は「赤錆不知1号」と同程度であるが，大粒菌核病にはやや弱く，「ドーソン1号」に比べると冬枯の危険性は少ない。
3. 出穂期は「赤錆不知1号」より2日ほど早い，成熟期は大差がない。
4. 子実は大粒で粒形は中，豊満で，粉状質である。
5. 小麦赤錆病にはかなりの抵抗性を示し，「サビマサリ」より強い。
6. 稈は太くないが短稈で直立し，ほとんど倒伏しない。
7. 穂数多くきわめて多収性で，特に多肥栽培および肥沃地においていちぢるしい増収性を發揮する。

奨 励 範 囲

網走および十勝支庁管内，特に肥沃地帯の根幹品種として「赤錆不知1号」，「ドーソン1号」におきかえるとともに，火山性土地帯では「サビマサリ」と適宜配合して栽培するとよい。

試験場名	出穂期	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		冬損歩合	試験年次
				草丈	穂長	30cm間葉数	子実重	稈重	1立重	千粒重		
	月日	月日	日	cm	cm	本	kg	kg	g	g	%	昭和 年
十勝支場	6.15	7.27	313	113.5	7.7	69	3,559	5,524	762	40.8	5.0	26~33
北見支場	6.14	7.25	315	104.6	8.6	72	3,860	—	761	38.6	4.6	25~33
根室支場	6.29	8. 8	300	91.8	6.9	75	1,142	2,781	718	38.2	—	31~33
天北支場	6.20	8. 5	329	108.5	9.8	48	2,079	4,522	707	32.7	32.5	30~33
国立農試 作物部	6.11	7.27	313	103.0	9.2	63	3,371	6,332	752	35.5	—	29~32

(3) サビマサリ (本系 300号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和17年北海道農業試験場において「赤錆不知1号」を母と

し、「小麦農林39号」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和22年「本系 300号」なる系統名を附し、同年より女満別麦類試験地において、また昭和23年より北見支場において生産力を検定するとともに地方適否を検定したところ、優良と認めたので、昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 「赤錆不知1号」より草丈は高いが、莖稈は太く強剛なので倒伏は少ない。
2. 冬枯に強く春先の生育は旺盛である。
3. 出穂期、成熟期とも「赤錆不知1号」より2、3日おそい。
4. 穂は白稈で無芒、穂長は長い。
5. 子実は長形、大粒で豊満千粒重量は重く中間質小麦であるが、多収な年は粉状質になりやすい。
6. 赤錆病には強く、生育後期には発生するが、抵抗性は強の部に属する。
7. 子実収量は「赤錆不知1号」と同じ程度かややまさり、少肥栽培の場合増収率は大きい。

栽 培 適 地

網走支庁管内に適し、沖積土で肥沃度の中ようなところ、または火山性土地帯に好適する。

試験場名	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		冬損 歩合	試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm間 本数	子実重 kg	稈稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	6.18	7.28	313	137.2	8.5	55	2,553	7,219	755	45.7	7.0	昭和 24~33
北見支場	6.18	7.28	317	138.2	9.2	68	3,200	—	760	43.1	5.0	24~33
根室支場	7. 1	8.12	306	119.8	8.5	66	1,135	3,992	703	41.3	多	31~33
天北支場	6.23	8. 6	330	130.1	11.1	66	1,724	6,233	673	39.5	34.0	30~33
国立農試 作物部	6.14	7.27	314	140.0	10.6	97	3,083	5,988	755	44.5	極少	30~32

(4) 大 中 山

来歴ならびに育成経過

この品種は亀田郡七飯村大字大中山部落の農家が作つていたものという程

度で、その来歴は明らかではない。北海道立農業試験場渡島支場ではこの種子の分譲をうけて試作したが、各種の形質が混在しているので、昭和26年に純系分離を行なった。しかしこれは品種の混合でなく、実は遺伝的雑種であつて、未だ分離することがわかつた。すなわち10数年間農家の手によつて栽培がくりかえされ、ラムシユによる最後の整理段階となつたのである。

発祥地の名をつけ「大中山」と称し、育成をつづけ、有望と認めたので昭和30年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈は110～120cm程度の短程で倒伏しない。
2. 赤銹病に強い。
3. 穂型は棒状で、無芒、稈色は褐色である。
4. 粒色は赤色で、粒型はやや短かく、大いさは中粒である。硝子率61.5%である。
5. 収量は安定しており、年による差は少なく、多収である。

奨 励 範 囲

冬損の心配はないが、道南以外では調査未了のため適地の判定は困難であるので、一応道南向きの品種として決定された。

試験場名	出穂期	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm ³ 莖数	子実重	稿稈重	1立重	千粒重	
	月日	月日	日	cm	cm	本	kg	kg	g	g	昭和 年
渡島支場	6. 5	7.23	313	112.0	9.1	75	2.971	6.165	718	39.7	27～33 欠 30
天北支場	6.14	8. 3	308	99.3	8.9	39	1.662	4.175	691	35.5	30～31

(5) 改良伊達早生

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場渡島支場において、昭和28年に伊達町の広瀬弘夫氏より俗称「伊達早生小麦」の種子分譲を受け1粒播を行ない、選抜固定を図り、「伊達早生小麦」の基本型を失わずして統一優良な系統の育成に努めたのである。従来不純であつた「伊達早生小麦」を改良し純度を高め

たということでこの品種名がつけられ、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期ともに「大中山」より7日内外早く、また他のいずれの種に比べても最も早熟である。
2. 草丈は80～90cmの短強稈で倒伏することなく、又草型は直立するので間作を行なうに適している。
3. 赤銹病、黒銹病に対する耐病性が強い。
4. 冬損は「小麦農林62号」程度で、特に強いとはいわれないが、実用的に支障はない。
5. 子実収量は「大中山」に次ぐ多収である。また肥沃地に栽培し、あるいは多肥栽培を行なうとさらに増収する。
5. 硝子率は高いが蛋白質の含量は特に多いというほどでなく、硬質品種としてあつかわれる「小麦農林8号」よりおとる。粒色、粉色ともにやや暗色をていするので、明色を喜ぶ精粉からみれば多少不利で、品質は中位である。

奨 励 範 囲

在来の「伊達早生小麦」に代えて栽培し、「大中山」と組入れ、道南地方に限定奨励するものとする。

試験場名	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数 日	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm間 本数	子実重 kg	稈重 kg	1立重 g	千粒重 g	
渡島支場	5.28	7.14	304	93.4	8.4	75	2,854	5,173	733	37.6	昭和29～33 欠30

IV 燕 麥

(1) 黒 実 1 号 (純(4)—22)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場根室支場において、「黒実」から純系淘汰によつて育成したもので、昭和26年より生産力検定試験を行ない。昭和28年には各試験機関で地方適否を確かめたもので、昭和29年2月優

良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期は「黒実」と同じである。
2. 草状ならびに穂型は「黒実」によく似ているが、稈長、穂長はともに短かく、茎数はやや多いが、茎は太く強剛である。
3. 子実の色は「黒実」より淡く、品質は同程度であるが、秤率はやや高い。
4. 子実収量は「黒実」より多く、確收性は高い。

奨 励 範 囲

この品種は強稈多収であるから、根柢地方のような多湿で倒伏の被害の多い地帯に適する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における				ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 葉数	株数	子実重	稈重	1立重	千粒重	
十勝支場	7.17	8.22	115	150.6	22.0		27	2,615	3,822	496	342	昭和 年
根室支場	7.31	8.26	116	123.6	22.4		32	2,306	3,895	446	332	28~33
天北支場	7.12	8.22	118	150.2	25.2		29	4,018	4,833	410	311	28~33

(2) ホ ナ ミ (春播燕麦農林 2号)

系 歴 ならびに 育 成 経 過

この品種は昭和17年に、北海道農業試験場において「黒実」を母とし、「ビクトリー1号」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和23年に「本系68号」と命名され、昭和24年には生産力検定予備試験に編入し、昭和27年から生産力検定試験を行ない、その後各地でも試験を行なった結果優良と認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 「ビクトリー1号」に比べると稈長は短かく、強稈、穂長は長い。
2. 出穂期、成熟期ともに「ビクトリー1号」より2、3日おそい。
3. 秤率は「ビクトリー1号」より多いが「前進」に比べると約3%位下回る。

4. 収量は「ピクトリー1号」より多収であるが、「前進」より少ない。

5. 冠状銹病抵抗性は「黒実」と同程度で強いとはいえない。

奨励範囲

根室地方における成績は良好で、道東地方に好適するものと思われるが、全道一円に適するものとする。地域的に強度の耐倒伏性を求める場合、または銹病被害のはなはだしい地帯は対象外とすべきである。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 本数	子実重	稈重	1立重	千粒重	
十勝支場	月日 7.16	月日 8.19	日 115	cm 136.4	cm 22.0	本 26	kg 2,809	kg 3,805	g 485	g 33.2	昭和 年 29~33
北見支場	7.10	8.12	—	129.4	21.4	51	4,200	5,270	428	31.7	30~33
根室支場	8. 1	8.26	—	156.1	22.0	39	2,120	3,830	375	30.5	31~33
天北支場	7.15	8.25	121	139.2	24.5	31	3,838	4,745	415	32.0	29~33
国立農試 畜産部	7.11	8.17	—	144.4	24.3	28	3,790	4,610	473	30.3	27~33

V 玉 蜀 黍

硬 粒 種

(1) 玉蜀黍交4号(月交193号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和15年より旧農林省札幌農事改良実験所において、「坂下」並びに「Mais Peta」より育成した自殖系統を、昭和26年組合せたフリント種の3系交配一代雑種(N21×N19)×T6である。昭和27年より北海道農業試験場畜産部において生産力検定を行ない、昭和30年より北海道立農業試験場各支場に配付して、適応性を検討してきたもので、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 粒は橙黄色で、絹糸抽出期は道内各地とも「坂下」に比較して大差ない。
2. 子実収量は「坂下」に比べて40%前後の増収である。

3. 草勢は「坂下」よりやや良好で、かつ葉身に紫色を帯びる部分がある。
4. 雌穂は粒列8～16列、円錐型に近く粒はやや小で、熱帯系フリント種の中間型を示す。

その他の特性は「坂下」に比較して大差がない。

奨励範囲

子実用として北海道東北部すなわち十勝、北見地方およびその他の「坂下」奨励地帯に適する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 芸部	月日 7.30	月日 8.5	月日 9.19	128	cm 211	cm 17.9	kg 4,873	kg 3,750	g 756	g 307	昭和年 29～33
十勝支場	8.3	8.9	9.27	133	248	—	5,267	4,974	702	333	29～33
北見支場	8.1	8.10	9.28	132	232	18.7	4,975	—	743	313	30～33
天北支場	—	8.11	9.29	132	211	22.6	6,050	—	681	338	33
国立農試 畜産部	8.1	8.9	9.29	138	—	18.6	4,492	—	718	307	27～31

甘味種

(2) タナバタワセ (札交5322)

来歴ならびに育成経過

甘味種×硬粒種により都市近郊の蔬菜用として、生食用極早生種の育成を目標として、北海道立農業試験場芸部において昭和28年に交配(キワセ×C13)を行ない、昭和29年より検定を行なつた。また各場においてもそれぞれ生産力の検定が行なわれたがその結果優良な組合せと認められたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特性概要

1. 品系交配種なので草丈、着穂高共に低い。
2. 雌穂は粒列8～14行で、粒形はやや大きな黄色種である。粒はフリント種のうちスイート種が混入しているほかは、外観食味共に「ゴールデンバンタム」に似ている。

3. 生食用極早生種で、熟期は「黄早生」に比べて2, 3日おくれるが、「ゴールデンパンタム」に比べて10~12日早く、「ゴールデンパンタム」より多収である。

奨励範囲

本道中部地域で8月中旬でも露地栽培にて生食可能である。生食用極早生種として都市近郊の早出しとうもろこしとして奨励する。

試験場名	抽出期		収穫 適期	生育 日数	成熟期 における		10当り穀穂量 収		子実		食味	試験 年次
	雄穂	雌穂			草丈 cm	穂長 cm	穂重 kg	経済 重量 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
道立農試 種芸部	月日 7.19	月日 7.25	月日 8.18	日 —	127	15.9	5,933	4,675	—	—	中の上	昭和年 29~33
十勝支場	7.19	7.25	9. 8	116	143	—	3,342	3,286	694	267	—	33

(3) ゴールデン クロス パンタム

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和27年に北海道農業試験場が米国インディアナ州農業試験場
ブランソン教授より、その親系統とともに分譲を受けたスイート種単交配一
代雑種 (P39×P51B) である。昭和28年より畜産部飼料作物第2研究室に
おいて生食または加工用として生産力検定を行ない、昭和30年より一部支場
その他に配付して適応性を併せ検討してきたもので、昭和31年3月優良品種
に決定した。

特 性 概 要

1. 粒は黄色で、粗糸抽出期は「ゴールデンパンタム」より約10日おそく、
中晩熟種である。
2. 生食適期における経済雌穂重は、「ゴールデンパンタム」に比べて50%
前後の増収率を示す。
3. 食味は「ゴールデンパンタム」より良好で、甘味も強く、生食用のほか
罐詰加工原料として適当している。
4. 草勢は「ゴールデンパンタム」よりはるかに良好で、分けつの多い特性
を有し、生食または加工用として雌穂を収穫した残茎葉は家畜の嗜好にも

適し、T.D.N（総可消化栄養分）は黄熟期収穫のデントコーン全植物体の70%弱の飼料価値もあるので、生飼草として利用性を有している。

奨励範囲

この品種は生食または罐詰加工用として、北海道中、南部地方の栽培に適し、平年の気象であれば十勝中央部地方でも栽培可能である。

試験場名	抽出期		収穫 適期	生育 日数	成熟期 における		ha当り穀穂量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	重量	経済 重量	1立 重	千粒 重	
道立農試 種芸部	8.10	8.17	9.9	—	cm 195	cm 17.2	kg 8,412	kg 8,232	g —	g —	昭和30~33
十勝支場	8.9	8.16	10.7	144	220	—	子実 3,283	稿穂 4,697	579	218	30~33
北見支場	8.9	8.19	10.4	140	232	16.5	3,233	—	581	192	32~33

(4) イエロースイート（札交5207）

来歴ならびに育成経過

本道に適應する甘味種の早生種として「ゴールデンパンタム」に替るべき1代雑種を得んとして北海道立農業試験場種芸部において昭和27年に交配{(C13×C30)×セルボア}を行ない、昭和28年より検定を行なつた。昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 「ゴールデンパンタム」と熟期は同じで早熟種に属し、「ゴールデンクロスパンタム」より10日位早い。
2. 穀穂は粒列8～10行で「ゴールデンパンタム」より雌穂長および雌穂径ともに大きい。
3. 食味は「ゴールデンパンタム」とほぼ同じで「ゴールデンクロスパンタム」よりややおとる。
4. 収量は雌穂重、経済雌穂数ともに「ゴールデンパンタム」より4、5割以上多収である。
5. 単交配×品種であるため採種量は大きく、単交配組合せより種子生産費は安い。

奨励範囲

生食用早生種として、「ゴールデンバンタム」栽培地域に奨励する。

試験場名	抽出期		収穫 適期	生育 日数	成熟期 における		ha当り穀量 収		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	重量	経済重量	1立 重	千粒 重	
道立農芸部 十勝支場	月日 7.27	月日 8.4	月日 8.27	日 —	cm 164	cm 16.2	kg 7,740 子実	kg 7,529 稿稈	g —	g —	昭和年 30~33
	7.29	8.6	9.26	134	169	—	4,138	3,254	598	286	32~33

(5) 複交4号(W275)

未歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に米国ウイソコンシン農業試験場から自殖系統とともに複交配種子の分譲を受けた。この品種はいわゆる自殖系統間1代雑種で、組合せの内容は(W-9×W-M13R)×(W-49×W-H)で昭和27年以来北海道立農業試験場種芸部で「W275」の系統名をつけ適応性の検定を行ない、一方導入した系統から複交配を採種し、昭和30、31の両年は道内各支場および一部現地試験をあわせ行ない、地方適応性の検討を行ない昭和32年3月優良品種に決定した。

特性概要

絹糸抽出期は札幌、滝川、士別では8月上旬、北見、十勝では8月中旬で「坂下」とほぼ同程度の熟期のデント種の多収品種である。草丈は中庸で、穀穂は粒列10~18行で子実は黄色である。

奨励範囲

「坂下」にかわる子実用デント種として、「坂下」の栽培地帯に奨励する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験 年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稿稈重	1立 重	千粒 重	
道立農芸部 十勝支場	月日 7.28	月日 8.5	月日 9.20	日 129	cm 199	cm 14.3	kg 4,335	kg 3,575	g 735	g 268	昭和年 29~33
	8.2	8.9	9.26	132	220	—	4,706	4,718	683	292	30~32
北見支場	7.29	8.9	9.29	133	217	16.0	4,997	—	690	305	30~33
天北支場	—	8.11	9.29	132	211	19.5	4,420	—	640	283	33

(6) 複 交 5 号 (W 355)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に、米国ウイスコンシン農試から自殖系統とともに複交配種子の分譲を受けた。この品種はいわゆる自殖系統間1代雑種で、組合せの内容は (W-9×W-M13R) × (W153R×W-25) で、昭和27年以来北海道立農業試験場種芸部で「W 355」の系統名をつけ適応性の検定を行ない、一方導入した系統から複交配を採種し、昭和30、31の両年は道内各支場および一部現地試験を併せ行ない、地方適応性の検討を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

絹糸抽出期は「複交4号」より3日前後おくれ、成熟期は約1週間おそい。したがって熟期はほぼ「ロングフェロー」程度で、「U-26」よりはかなり早い。草丈は中ようで穀穂は粒列10~18行で子実は黄色のデント種である。収量は道中央部以南では多収で、同地帯の早生子実用デント種として適する。

試験場名	抽 出 期		成熟期	生育 日数	成 熟 期 における		ha当り収量		子 実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 種芸部	月日 8. 2	月日 8. 8	月日 9.26	日 135	cm 208	cm 14.2	kg 4,300	kg 3,545	g 729	g 274	昭和 年 29~33
十勝支場	8. 6	8.14	10. 1	137	230	—	4,891	5,227	661	289	30~33
北見支場	8. 8	8.14	10. 2	137	228	15.6	4,213	—	640	262	29~33
天北支場	—	8.10	9.29	132	211	19.3	4,360	—	643	275	33

(7) 複 交 6 号 (札交2837)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に北海道立農業試験場種芸部において次の組合せ内容 (ND-283×A-171) × (W-H×W-9) により複交配の交配が行なわれ昭和27年以来「札交2837」の系統名をつけ生産力の検定が行なわれた。昭和

30, 31の両年には道内各支場で、また昭和31年には一部現地試験を実施し、地方適応性の検討を行ない昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

絹糸抽出期は各地とも7月下旬で、成熟期も「坂下」よりやや早く、かつ多収である。草丈は中庸で、穀穂の粒列10～18行で、子実は淡黄色、一部白色粒が混入する。

奨 励 範 囲

道東、道北地帯の自家用の飼糧として安全性が高く好適である。

試験場名	抽 出 期		成熟期	生育 日数	成 熟 期 における		ha当り収量		子 実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈稈重	1立 重	千粒 重	
道立農芸部	月日 7.27	月日 8.3	月日 9.16	日 125	cm 200	cm 14.7	kg 4,213	kg 3,125	g 737	g 247	昭和 29～33
十勝支場	7.31	8.7	9.24	130	217	—	4,167	3,574	695	259	30～32
北見支場	7.29	8.8	9.26	129	217	16.5	5,221	—	704	285	30～33
天北支場	—	8.6	9.24	127	209	20.4	5,120	—	667	293	33

(8) 複 交 7 号 (札交2720号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に北海道立農業試験場種芸部において次の組合せ内容 (W—M13×A—357) × (W—W×W—28) により複交配の交配が行なわれ、昭和27年以来「札交2720」の系統名をつけ、生産力の検定が行なわれた。昭和30, 31の両年には道内各支場で、また同31年には一部現地試験を実施し地方適応性の検討を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

絹糸抽出期、成熟期ともに「複交6号」よりおそく、「複交4号」よりは早い。草丈やや高く、穀穂は粒列10～18行で、子実は黄色のデント種で極めて多収である。

奨 励 範 囲

「ロングフェロー」にかわる子実用デント種として、「ロングフェロー」

栽培地帯に適する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 種芸部	月日 8. 2	月日 8. 6	月日 9.21	日 130	cm 213	cm 14.3	kg 4,797	kg 3,611	g 727	g 273	昭和 年 29~33
十勝支場	8. 5	8.10	9.26	132	233	—	4,658	5,336	679	267	30~32
北見支場	7.31	8.10	9.30	133	225	15.9	5,214	—	701	290	30~33
天北支場	—	8.14	10. 5	136	228	18.7	4,290	—	621	257	33

(9) 複交8号(札交2728)

米歴ならびに育成経過

この品種は「U-28」の原々種の保有が国内ではできないので、この品種にかえるべき本道中部以南の子実用として育種された。昭和23年に米国より自殖系統が導入され、旧農林省農事改良実験所において系統の組合せ能力の検定が行なわれた。その後北海道立農業試験場種芸部に引きつがれ、昭和26年より次の組合せ内容(W-23×W28)×(A-357×Oh-40B)により複交配の組合せが行なわれた。昭和28年より生産力の検定が行なわれ、昭和32年以降各地で地域適応性を検定した結果優良組合せと認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 熟期は「ウイソコンシン12号」、「U-28」とほとんど同じで、本道では中生種に属するデント種の複交配種である。
2. 草丈はやや高く、生草重は「U-28」と同じ程度か、場所によつては多収である。
3. 穀穂の粒列は14~18行で大きい。
4. 子実は黄色である。

奨 励 範 囲

「U-28」に比べて多収なので、これに替えて本道中部以南の子実用として奨励する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 芸部	月日 8. 8	月日 8.12	月日 10.1	日 138	cm 249	cm 16.3	kg 5,012	kg 4,340	g 695	g 245	昭和 年 29~33

(10) U-28

米歴ならびに育成経過

この品種はデント種に属する複交配種である。昭和24年北海道立農業試験場種芸部において、米国商社より毎年原々種である単交配の種子の提供をうけ、本場においては昭和25~27年の3ヶ年、各支場では昭和26~27年の2ヶ年にわたり特性を検定し、さらに昭和27年には各地で地域適応性を検定したものである。種芸部において育成しつつある複交配種が大量に増殖されるまでのつなぎとして昭和28年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 絹糸抽出期および成熟期は「複交1号」「複交2号」、「複交3号」および「ウイスコンシン12号」のいずれよりも早い。
2. 子実収量は「ロングフエロー」に比べて各地とも4~5割の増収を示している。しかし十勝および北見地方では「ロングフエロー」に比し生育日数が多くなるので、年によつて未完熟に終わる危険がある。

奨 励 範 囲

本道中部においては中生種に属し、子実用としては道中央部およびその以南に、エンシレージ用としては中部以北に奨励する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 芸部	月日 8. 7	月日 8.13	月日 10. 3	日 139	cm 226	cm 15.0	kg 4,319	kg 3,710	g 716	g 259	昭和 年 29~33
十勝支場	8.12	8.16	10. 4	141	246	—	4,476	6,092	625	245	26~30
北見支場	8. 5	8.15	9.29	134	241	16.6	4,578	—	595	282	26~30
天北支場	—	8.27	10.21	145	191	19.4	3,550	—	565	200	28~29